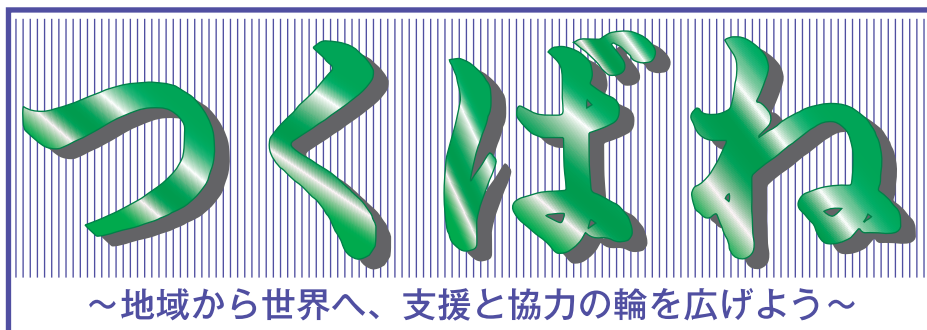




No.67

発行:令和4年11月22日
 茨城県青年海外協力隊を育てる会
 発行人:小川一成
 編集:広報文化委員会
 事務局:つくば市高野台3-6 〒305-0074
 JICA筑波センター内
 TEL 029(838)1111
 印刷:合資会社おおた



育てる会設立25周年に寄せて

JICA筑波所長 睦好絵美子

茨城県青年海外協力隊を育てる会の皆様におかれては、長年にわたりJICA海外協力隊及びご家族に対するご支援を賜り、茨城県におけるJICAボランティア事業の発展に多大な貢献をいただいております。深く感謝申し上げます。

隊員の皆さんの強い意志と周囲の方々の支援を得て、茨城県出身のJICA海外協力隊派遣実績は1966年から2021年までに累計1134名86か国となりました。2022年9月末時点で15名が派遣中です。

帰国した隊員の皆さんは茨城県内の学校、自治体、企業、NPO法人など様々な場所で活躍されています。私自身、本年4月に着任してから、協力隊OVの皆さんと知り合う機会がありましたが、帰国後も生き生きと新しいことに挑戦されている方、地域に貢献されている方が多いように感じました。

JICAのホームページで過去25年間の年度別派遣実績を見ますと、90年代から右肩あがりが増えていましたが、東日本大震災が発生した2011年からの数年間は最も派遣人数が大きく落ち込みました。東日本大震災では多くの開発途上国からお見舞いや支援の申し出がJICA本部にも届き、協力隊をはじめ日本の国際協力が培った友好や信頼の力を感じました。

その後派遣人数は回復しましたが、2020年3月、新型コロナウイルス感染拡大により76か国約2000人の隊員が一斉一時帰国することになりました。その後、徐々に派遣を再開し、2022年10月末で59か国604名が派遣されています。今年、茨城県から送り出した協力隊員のなかには、コロナの影響で2年以上派遣を待ち望んでいた方も少なくありませんでした。長年、協力隊を目指して資格をとり経験を積んで準備をしてきたのに派遣が延期となり、さらに2年の待機期間を経ていよいよ派遣となった

際の育てる会の壮行会では、涙を浮かべておられたのが印象的でした。

今年は水戸市や守谷市でのイベントに協力隊募集のブースを出させていただき、想像以上に「いつか協力隊に行きたいと思っています」という方が立ち寄ってくださいました。筑波大学や茨城大学でのセミナーでも協力隊を志望している学生さんが多くいることがわかりました。協力隊への一步を踏み出すための応援、派遣中の活動支援、そして帰国後の進路支援など、育てる会のご支援は隊員本人にとっても、またJICAにとりましてとても心強く励みになります。SNSの普及やデジタル化が進み、海外にいても家族との連絡や就職活動もずっと容易になりましたが、育てる会の皆様には茨城県における地域のネットワークをもつ有識者として、JICAボランティア事業の理解者として、今後ともJICA海外協力隊を応援していただければ大変有難く存じます。

ご存じのとおり、JICAボランティア事業の目的の一つに「異文化社会における相互理解の深化と共生」があります。帰国後に日本の社会にその経験を生かす際、もっとも重要な資質だと思います。JICAは3年前に外国人材受入れ・多文化共生支援を始めました。これまでも国内における多文化共生の取り組みに協力隊OVが少なからず貢献してきましたが、今後日本の農業や産業が外国人材に頼らざるを得ないことや、外国人が隣人となる地域づくりを考えると、多文化共生の重要性と協力隊を経験した人材が果たす役割が増していくのではないかと考えます。

最後になりますが茨城県青年海外協力隊を育てる会の益々のご発展をお祈りいたします。

令和4年度通常総会開催

令和4年度通常総会は3年ぶりに対面方式により開催されました。

会議の概要を報告します。

事務局長 小松崎 弘尤

日時 令和4年7月10日(日) 午前10時30分～
 場所 独立行政法人国際協力機構 筑波センターけやき棟1階体育館
 司会 小松崎 弘尤 事務局長
 会員数 97名 (内 団体19・家族会員 2名)
 出席者 20名 委任状提出者 55名 計 77名 他にJICA職員 3名
 1. 開 会 橋本 明彦 理事
 2. 会長あいさつ 小川 一成

3. 来賓祝辞

茨城県営業戦略部国際渉外チームチームリーダー 竹村 明浩 様
 一般社団法人 協力隊を育てる会 事務局長 大石 精一 様
 公益財団法人 茨城県国際交流協会 事務局長 鹿志村 浩行 様
 茨城県議会議員 伊澤 勝徳 様
 独立行政法人国際協力機構筑波センター所長 睦好 絵美子 様

祝電披露

茨城県議会議員 伊澤 勝徳 様
 茨城県参議院選挙区第3支部長 加藤 明良 様

4. 議長選出

司会提案で出席者に諮り、臼井 平八郎 副会長を選出

5. 議事録署名の選出

議長提案で、仮屋茂 会員、国府田 良樹 会員を選出

6. 議 題 臼井 議長により議事に入る

- 議案第1号 令和3年度事業報告、議案第2号 令和3年度収支決算について、関連議題で一括上程されました。事務局から新型コロナウイルス感染防止のため、令和3年度通常総会は書面議決と報告があり、異議もなく議決されたこと。理事会2回開催、運営委員会は数回中止、壮行会はオンライン方式で2回実施、広報紙「つくばね」は64・65号を発行などの報告があり、令和3年度の協力隊は4名が任国で活動していると説明がありました。
令和3年度収支決算及び周年事業積立金決算について、小松崎千恵子会計から報告されました。鶴町監事より監査報告があり、議長より質問を求めましたが、2議案は異議なく可決されました。
- 議案第3号 令和4年度事業計画、議案第4号 令和4年度収支予算が一括上程され、事務局及び会計から会員増強と会費回収率の向上を図る旨説明があり、質問もなく2議案は可決しました。
- 議案第5号 役員改選について上程され、事務局より役員改選委員会を開くところだが、6月3日の第1回理事会で推薦されていることから、委員会は開催しないで、田中 重男監事が開発教育委員長なり、千原 みち子 開発教育委員長が監事になる事で承認されました。その他の役員は全員留任となります。
- その他では、設立25周年事業について事務局より、平成29年7月に二本松訓練所の視察を行ったので、駒ヶ根訓練所の視察、ラオススタディーツアーの2案が提案されましたが、時期・期間など結論が出ず、小川会長一任となりました。

その後、閉会宣言で全日程を終了しました。

今年度は例年の様な立食形式による懇親会を行わず、出席者全員にお弁当をお渡ししました。



小川会長の挨拶



会場風景（講堂で距離を十分に）

活動報告 後編 (つくばね66号前編からの続き)

「緊急帰国から再赴任」

2019年度2次隊／ジンバブエ／
体育 小倉 奨平

ジンバブエに来て4ヶ月が過ぎ、活動や生活にも慣れ始めて2年間の見通しを立て始めた矢先、突然の緊急帰国が決まった。新型コロナウイルスである。大急ぎで荷物をまとめ、同僚や学生たちへの挨拶も簡略的に済ませ、首都へと上がりジンバブエを後にした。

当初はすぐに戻れるだろうと考えていたがなかなか戻ることができずに時間が過ぎた。日本待機中に何度も悩み、協力隊を辞めることも考えた。それでも自分を必要としてくれるあの場所に戻りたい、あの人たちの力になりたいという気持ちが繋ぎ止めてくれた。

そしていよいよ再赴任が叶った。緊急帰国から1年後のことである。配属先に着いた時、同僚・友人たちが「おかえり、待っていたよ。帰ってきてくれて嬉しいよ。」と言ってくれて本当に嬉しかった。また、それだけではなく、帰国前まで教えていた学生たちが教育実習に出ていて忙しい中、わざわざ会いに来てくれ、それもまた嬉しかった。

再赴任後は、活動内容を見直し、活動を再開した。活動期間が短くなってしまった分を取り戻すためにも今まで以上にワークショップを行ない、日本の学校・教師との交流も積極的に実施した。そんな中、教え子の1人がジンバブエ代表として東京パラリンピックに陸上競技で出場を果たした。また、「世界の笑顔のためにプログラム」を通じて日本各地から支援して頂いた物資の提供もした。物資は、野球グローブ50個、金属製バット10本、野球ボール26個、サッカーボール15個にも上った。

さらに、週末はグウェル野球協会の活動に参加して地域の人たちや子どもたちとともに野球を楽しんだ。私は野球を専門にやってきたわけではなかったのですが、技術指導はあまりできなかった代わりに、人や物・環境に感謝

して大切にすることを教えた。最初は適当に使っていた用具も大切に丁寧に使ってくれるようになり、グラウンドの整備やゴミ拾いをする姿も見られるようになった。その上で、私のことも「チームメイトだろう！一緒に野球やろうぜ！キャッチボールだ！」と仲間として接してくれた。本当にジンバブエ人は暖かく、スポーツには国境や言葉の壁はないと感じた。

目まぐるしく精一杯活動していくことで任期は驚くほど早く過ぎ、終了した。最後には配属先の仲の良い同僚たちがフェアウェルパーティーを開いてくれ、思い出を振り返ることで泣いてしまった。その時、あの場所が自分の中でかけがえのない、とても大きな存在になっていたことに気づいた。多くの“友達”に支えられた私は幸せ者である。

協力隊活動を通して日本では決してできない経験をしたことで、多くのことを学び、気づくことができた。何事も自分の目線ではなく相手と同じ目線で共に考え、共に行動すること、受け入れることと妥協することの違い、真の優しさ、真の幸せ、日本人である誇りと責任。

この2年間で得たこと、学んだこと、そしてジンバブエという地で“友達”が教えてくれたことは決して忘れることはなく、忘れられない。今後の私の人生において常にエネルギーをくれる存在である。これからも自分が正しいと思うことを精一杯全うしていく。“友達”に恥じないように。



「世界の笑顔のためにプログラム」で頂いた物資を寄贈



グウェルの野球チームFalconsの仲間たちと



物資寄贈式典での一幕

令和4年度1次隊(4名)の県知事表敬訪問に同行して

事務局長 小松崎 弘尤

令和4年度1次隊4名の県知事表敬訪問は7月21日(木)午後1時30分～2時まで、知事応接室で行われました。

同行者はJICA筑波センター睦好絵美子所長、荒井英恵主事、荒井江梨子国際協力推進員、大橋 暁青年海外協力隊茨城県OV会副会長と私でした。

知事は笑顔で1人1人に氏名・任国・職種・隊員に応募した理由などを聞き、隊員も緊張しながらも丁寧に説明、最後に茨城県親善大使の委嘱状を川松秀夫隊員が代表して受け取りました。記念写真をそれぞれ任国の国旗を持ち、知事は県旗を持って撮影し、知事の見送りを受け表敬訪問を終了しました。

隊員紹介（写真左から 敬称略）

酒寄 真成	パラオ	小学校教育
川松 秀夫	南アフリカ	理科教育
大橋 美月	ベナン	野菜栽培
坂本 晋太郎	ウガンダ	体育



各隊員が任国の国旗を掲げて

久々の対面での壮行会をおこないました

知事表敬訪問に引き続きJICA筑波センターで壮行会がおこなわれました。

コロナ禍前の令和元年11月の2次隊以来実に2年8か月ぶりの対面での壮行会でした。

以前のような立食形式ではなく、お茶やジュースのみのささやかなものとしましたが、各隊員と海外からの研修員、少人数の参加者で和やかな雰囲気で行われました。

各隊員の健康・安全とご活躍を期待します。



OV会副会長から激励を受ける隊員



簡素化して開催



研修生やOGと懇談する大橋隊員



参加者全員で

令和4年度2次隊県知事表敬訪問同行記

事務局長 小松崎 弘尤

9月29日午前11時30分～ 壹岐満明隊員の県知事表敬訪問で、JICA筑波センター陸好絵美子所長、青年海外協力隊茨城県OV会 石森和磨会長とともに横山征成副知事を訪れました。

壹岐隊員の自己紹介に続き、横山副知事より隊員の任国、職種等について質問がありました。隊員は、はきはきと質問に答えられていました。さらに副知事から茨城県親善大使の委嘱状が交付され、激励を受けたのち記念写真を撮り、知事表敬訪問は終了しました。



横山副知事から親善大使の委嘱状が交付



任国の国旗を掲げて

令和4年度2次隊壮行会に参加して

帰国隊員家族 岡田 實

令和4年9月29日（木）JICA筑波センターで行われた海外協力隊の壮行会に久しぶりに参加しました。新型コロナウイルス感染症予防の観点から参加がなかなかできませんでしたが皆さんに会える事を楽しみに参加しました。

壮行会は、スタディ棟3階講堂で行われ、1名の隊員が出席されました。

育てる会小川会長の挨拶、JICA筑波センター柴田和直次長の挨拶に続き、今回派遣される壹岐満明隊員（パラグアイ コミュニティー開発）の自己紹介がありました。

JICAからは研修員ダマセンさん、柴田次長、石沢課長、荒井主事、河津国内協力員の5名、育てる会9名と少人数でしたが、少ない中1つのテーブルに集まって家族の様な雰囲気の中で行われました。壹岐隊員から以前隊員として赴任した時（ネパール）のお話があり当会員のHさんのお嬢さんも同時期に派遣されており、現地での活躍ぶりが思わぬ形で紹介されました。「こんな事もしていませんでした?」、「ああ!そうそう」…と、言うような形で娘さんの現地での話に発展して、聞いてい

る周りの人も巻き込んで会話が盛り上がり驚きました。

壹岐隊員は任地には11月初め出発しドバイ、サンパウロ経由でパラグアイに行かれる予定で日本からは全く裏側の国ですから2日位かかるとのこと。言語はグアラニー語、食事は主に肉食（アサード）傾向の文化とのお話でした。

私達の知っているのは、サッカーと古くは日本からの移民が多かった事ではないかと思います。

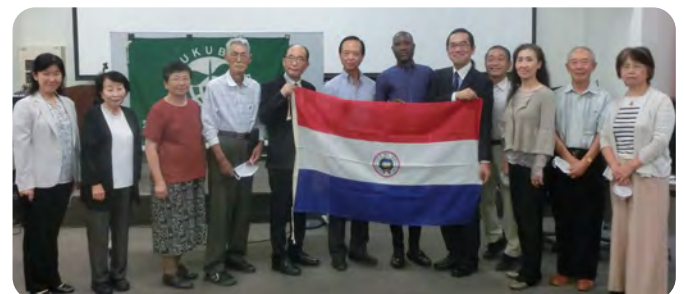
肉食のアサードは私が移民船乗組員の頃アルゼンチンのブエノスアイレス港で良くご馳走になりました。その時パラグアイに移住する家族の方々がおられました。そんな関係で南米の話は懐かしく聞きました。

任地への出発が11～12月になるそうで、「今までは壮行会の終了直後出発が多かったが今はゆっくりだなあ」と小川会長が話されていましたが、隊員の方はこれから赴任先で2年間という長い期間慣れない生活と初めての経験と安全との戦いになります。楽しく健康で活躍され、元気で戻って来られることをお祈り致します。

これからも「海外協力隊員」とそれを「育てる会」の私達で一緒になって隊員の応援をしていきたいと思っています。



家族的な雰囲気（右端が壹岐隊員）



隊員を囲んで

これまで・これからの事業について

■ これまでの事業報告

令和4年	6月3日(金)	令和4年度第1回理事会	JICA 筑波センター
	6月4日(土)	第3回運営委員会	(中止)
	7月2日(土)	第4回運営委員会	JICA 筑波センター
	7月10日(日)	令和4年度通常総会	JICA 筑波センター
	7月21日(木)	令和4年度1次隊	県知事表敬訪問・壮行会 県庁・JICA 筑波センター
	7月22日(金)	広報紙「つくばね」66号発行	
	8月6日(土)	第5回運営委員会	(中止)
	9月3日(土)	第6回運営委員会	(中止)
	9月29日(木)	2次隊	県知事表敬訪問・壮行会 県庁・JICA筑波センター
	10月1日(土)	第7回運営委員会	(中止)
	10月25日(火)	第2回理事会	JICA 筑波センター



■ これからの事業予定

	11月5日(土)	第8回運営委員会	(中止)
	11月下旬	広報紙「つくばね」67号発行	
	12月3日(土)	第9回運営委員会	JICA筑波センター
	12月中旬	3次隊	県知事表敬訪問・壮行会 県庁・JICA筑波センター
令和5年	1月7日(土)	第10回運営委員会	JICA筑波センター
	2月4日(土)	第11回運営委員会	JICA筑波センター
	3月4日(土)	第12回運営委員会	JICA筑波センター
	3月中旬	4次隊	県知事表敬訪問・壮行会 県庁・JICA筑波センター
	3月下旬	広報紙「つくばね」68号発行	

事務局だより

会員状況 () は家族会員

区分	令和4年5月末現在	令和4年10月末現在
個人	78 (2)	65 (2)
団体	19	18
計	97 (2)	83 (2)

編集後記

本号も「25周年記念号」の第2弾として、増ページで発行しました。

JICA筑波センター所長が4月に代わられたので会員の皆様への挨拶を兼ねて寄稿していただきました。

コロナ禍はまだまだ収まっていませんが3年ぶりに対面での総会が開催できたことや、壮行会も簡素ながら対面で実施するなど、JICA筑波センターの一方ならぬご協力で当会の活動も戻りつつあり、深く感謝いたします。

因みに、派遣隊員の知事表敬訪問と壮行会の様子はJICA筑波のホームページでも紹介されていますので、ぜひご覧ください。